

マクド難民予備軍

「稼ぎ悪すぎアパートなんて」

仕事や住まいを失い、マクドナルドなど深夜営業の店を渡り歩いて夜を明かす「マクド難民」。

大阪でそう呼ばれる人たちが増えたのは、多くの企業で非正規社員の採用が広がっているからだ。低賃金に苦しみ、いつ職を奪われるか分からない。そんな不安を抱えるマクド難民の「予備軍」も多い。

夜明け前の寒さがしみる午前5時前、大阪市天王寺区の近畿日本鉄道「大阪上本町駅」入り口のドアが開く。古びたジャンパーを着込んだ男性たちがぼつりぼつりと現れ、ホームの待合室に入っていく。しばらくすると、いすに座ったまま眠りに落ちた。

電車の発着を告げる放送が頻繁に流れ、通勤の会社員たちが目の前を慌たたく通る。それでも、起きる

派遣を転々「駅寝」が日常

気配はまったくない。貧乏旅行の若者たちが、宿泊費を削るために駅で寝ることを「駅寝」と呼ぶ。それが日常の生活になっていく男性たちだ。

通勤の人並みが途絶えた午前10時半ごろ、一人の男性(49)が目覚めた。

派遣で働きながら、1年の大半を駅で寝る生活を10年あまり続けている。「稼ぎが悪すぎてアパートなんか借りられませんわ」

カメラ用品の工場に勤めている。時給800円で1

日6時間。週3〜4日しか仕事がないので、月収は6万円ほどだ。

働く日は、工場がある大阪市郊外まで片道200円の切符を買って駅に入り、

屋まで寝てから工場に向かう。仕事が終わると、この駅まで戻り、そのまま改札

を出ずにホームで待合室で過ごす。

終電が発車する午前0時すぎに駅のドアが開まるので、いったん外に出る。

「路上で寝ると襲われるのが怖い」から、難波駅近く

まで30分歩き、新古書店ブックオフで時間をつぶす。

24時間営業のスーパー「玉出」で、朝食と夕食用に安売りの弁当を二つ買って、午前5時ごろ駅に戻る。

疲れがたまるので、週に2日は個室ビデオ店に泊まる。稼ぎの中から、1日1500円(11時間)出し、

シャワーを浴びてソファベッドで寝る。1杯1000円のコーヒーで毎晩を過ごす

「マクド難民」よりも、少しは楽だという。

もとは大阪の町工場のめ

っき職人で、正社員だった。90年代からのグローバル化で中小企業がつぶれ、生き残ろうとする会社は中

国などに工場を移し始めた。職を失い、三洋電機の製品を倉庫から出し入れする仕事にありついた。

それからずっと、派遣の仕事で転々としている。収入が急減し、アパートを出て駅で寝るようになった。

これだけ節約しても、お金は一方向にたまらない。「この生活をいつまで続けられるか」。不安だけが募る。



終電前、駅の待合室で眠る男性＝13日午後10時47分、大阪市天王寺区

技能や待遇低いまま

非正規社員たちの希望がみえないのは、低賃金だけならなくなった時のため

門学校を出て派遣会社の正社員になり、日立製作所の子会社で93年まで7年間働いたが、事業の縮小にともなう人減らしにあった。そ

大学など名の通った職場は多くあったが、与えられたのは、郵便物の社内配達やコピー取りなどの単純な仕事

95年の報告書をまとめた元日経連労政部長の小柳勝二氏は「グローバル競争の激化や65歳までの雇用機

限界につぼん

第2部 雇用と成長 ⑨

技能や待遇 低いまま

非正規社員たちの希望がみえないのは、低賃金だけが理由ではない。

「いまの仕事は来月で終わります」

想で人減らしをしなければならなくなった時のために、いつでも切り捨てられ「雇用の調整弁」としてつかわれていた。

東日本大震災直後の20

いま働いている愛知県の

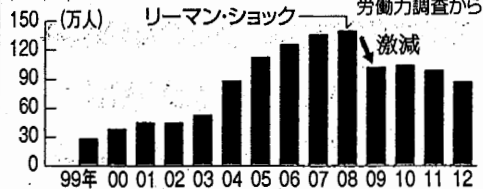
11年3月末、群馬県内で大手電機メーカー子会社の自動車部品工場に働いていた男性(47)は、派遣会社から電話で「クビ」を告げられた。震災で自動車メーカーの生産が止まったため、人件費を削るために派遣社員130人をすべて解雇するという。

正社員への壁は高い。非正規の仕事は単純作業が多く、経験や技能が身につかない。将来のステップアップにもつながらない。

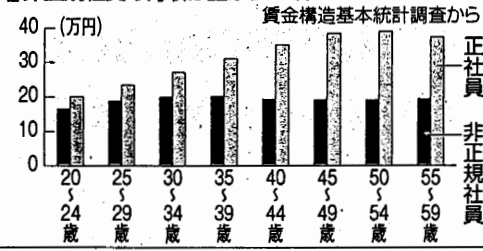
それが9カ月働いていたが、契約は1カ月ごとに更新されていた。不測の事

派遣など非正規社員の雇用は不安定で、賃金も低い

■派遣社員数はリーマン・ショック後に激減した



■非正規社員の月収は上がりにくい



格差生んだ規制緩和

門学校を出て派遣会社の正社員になり、日立製作所の子会社で98年まで7年間働いたが、事業の縮小にともなう人減らしにあった。それから約20年、正社員の働き口はなく、東京や仙台で8カ所、非正規社員として働いてきた。

大学など名の通った職場は多かったが、与えられたのは、郵便物の社内配達やコピー取りなどの単純な仕事が大半だった。50歳が近づき、勤め先の評価は新卒の若者とほとんど変わらない。「クビにならないことを祈るだけ。非正規社員ならだれでも、マクドナルドの子会社、明治学院民になる心配がある」

非正規社員が広がる契機は、90年代後半の「派遣の原則自由化」だった。

正社員の終身雇用を柱にした「日本型経営」の限界が叫ばれていた。日本経営者団体連盟(いまの経団連)が95年、報告書「新時代の『日本的経営』」で非正規社員の活用を提案すると、規制緩和を求める声が強まった。専門職に限定されていた派遣が99年、原則自由化され、小泉政権時代の04年には製造業にも解禁された。

当時は、「雇用の流動化」や「ライフスタイルにあった働き方」といった規制緩和の利点はかりが強調された。だが次第に問題点が浮き彫りになってきた。

なく転換する」とみる。95年の報告書をまとめた元日経連労政部長の小柳勝二郎氏は「グローバル競争の激化や65歳までの雇用義務化など企業の経営環境が大きく変わり、雇用の枠組みを抜本的に見直す時期にきている」という。ただ、「失業者らが新たな技能を学んで再び雇用市場に戻れるようなセーフティーネットを同時に整備しないと、(格差拡大を生んだ)前回と同じことを繰り返しかねない」と指摘する。(中川仁樹、編集委員・西井泰之)

今回は、社内失業者を集めた「追い出し部屋」について、法的な問題点などを現場の事例をもとに検証する。

記事へのご意見などをメールアドレス(keizai@asahi.com)までお寄せください。

スポンジケーキに生クリームにイチゴ。甘酸っぱく、しっとりして日本のケーキの代表だね。戦後、みんなに親しまれるようになったんだ。

1101